

営農だより

除草剤を
散布する時は
散布する除草剤の
種類に注意しよう!



4月・5月のポイント～10の推進技術・5つの1ヶ月対策～ (営農ブックP15.16参照)

- 植付本数は1株当たり3～4本
- 栽植密度は基本の60株植え
- 5月田植えの励行 (コシヒカリ)

■田植えのポイント ひゃくまん穀は60株以上を推奨します

植付け株数/坪	60株	・茎と根を太く丈夫にする (倒伏、乳白粒対策) (基本は60株植えですが、地力の高い圃場では50株植えも可能です)
使用箱数/10a	18箱	
植付け本数	1株に3～4本	・過剰生育の抑制
植付け深さ	3cmの浅植え	初期生育の促進
補植	連続欠株のみ行う	除草剤散布後は除草剤の効果が劣るため行わない

- 代かきは浅水でおこない、濁った水を排水路に流さないようにする。
- 田植え後5日間程度は深水管理とし、苗を保護する。

■苗箱施用剤 (ハウスで後作として作物を栽培する場合はハウス内で散布しない。)

ゆめみづほ・ひゃくまん穀

薬剤名	散布時期	散布量	対象病虫害 (移植当日の場合)
エバーゴルフフォルテ箱粒剤	は種時(覆土前)～移植当日	50g/箱	いもち病・白葉枯病・紋枯病・イネミズゾウムシ・イネドロオウムシ・ウンカ類・ツマグロヨコバイ

箱剤と除草剤を
間違えないように
注意しよう!



コシヒカリ

薬剤名	散布時期	散布量	対象病虫害 (移植7日前～移植当日の場合)
Dr.オリゼリディア箱粒剤	移植3日前～移植当日	50g/箱	いもち病・白葉枯病・イネカラバエ・イナゴ類・ウンカ類・イネヒメハモグリバエ・イネミズゾウムシ・イネドロオウムシ・ニカメイチュウ・ツマグロヨコバイ・フタオビコヤガ
ブイゲットバリアード粒剤	移植3日前～移植当日	50g/箱	対象病虫害 (移植当日の場合) いもち病・白葉枯病・もみ枯細菌病・イネミズゾウムシ・イネドロオウムシ・ツマグロヨコバイ・ニカメイチュウ

※Dr.オリゼリディア箱粒剤・ブイゲットバリアード粒剤は紋枯病に対する効果はありません。

■地域別施肥基準 ～過剰生育・栄養凋落しないよう努めましょう～

土壌	基肥一発 (kg/10a)			分施肥体系 (kg/10a)					
	肥料名	品種名			肥料名		品種名		
		コシヒカリ	ゆめみづほ	ひゃくまん穀	全層施肥	側条施肥	コシヒカリ	ゆめみづほ	ひゃくまん穀
砂質土 乾田	コシ一発くんNEOα	24～28			高度 056号	側条 10号	25～30	40	40
	コシ一発くんDX24 新コシ一発くん	30～35							
	けい酸アップ・コシ一発くん	40～46							
	早生一発くんNEO 早生一発くんDX28 新早生一発くん		40						
	ひゃくまん穀一発くんNEO H ひゃくまん穀一発くん			38～40					
埴壤土 半湿地	コシ一発くんNEOα	20～24			高度 056号	側条 10号	20～25	35～40	35
	コシ一発くんDX24 新コシ一発くん	25～30							
	けい酸アップ・コシ一発くん	32～40							
	早生一発くんNEO 早生一発くんDX28 新早生一発くん		35～40						
	ひゃくまん穀一発くんNEO H ひゃくまん穀一発くん			35～38					
埴壤土 湿地	コシ一発くんNEOα	16～20			高度 056号	側条 10号	15～20	35	30
	コシ一発くんDX24 新コシ一発くん	20～25							
	けい酸アップ・コシ一発くん	26～32							
	早生一発くんNEO 早生一発くんDX28 新早生一発くん		35						
	ひゃくまん穀一発くんNEO H ひゃくまん穀一発くん			35					

※①上記基準は目安です。営農ブック(土壌分析結果P28～)を参考に施肥量を調整して下さい。

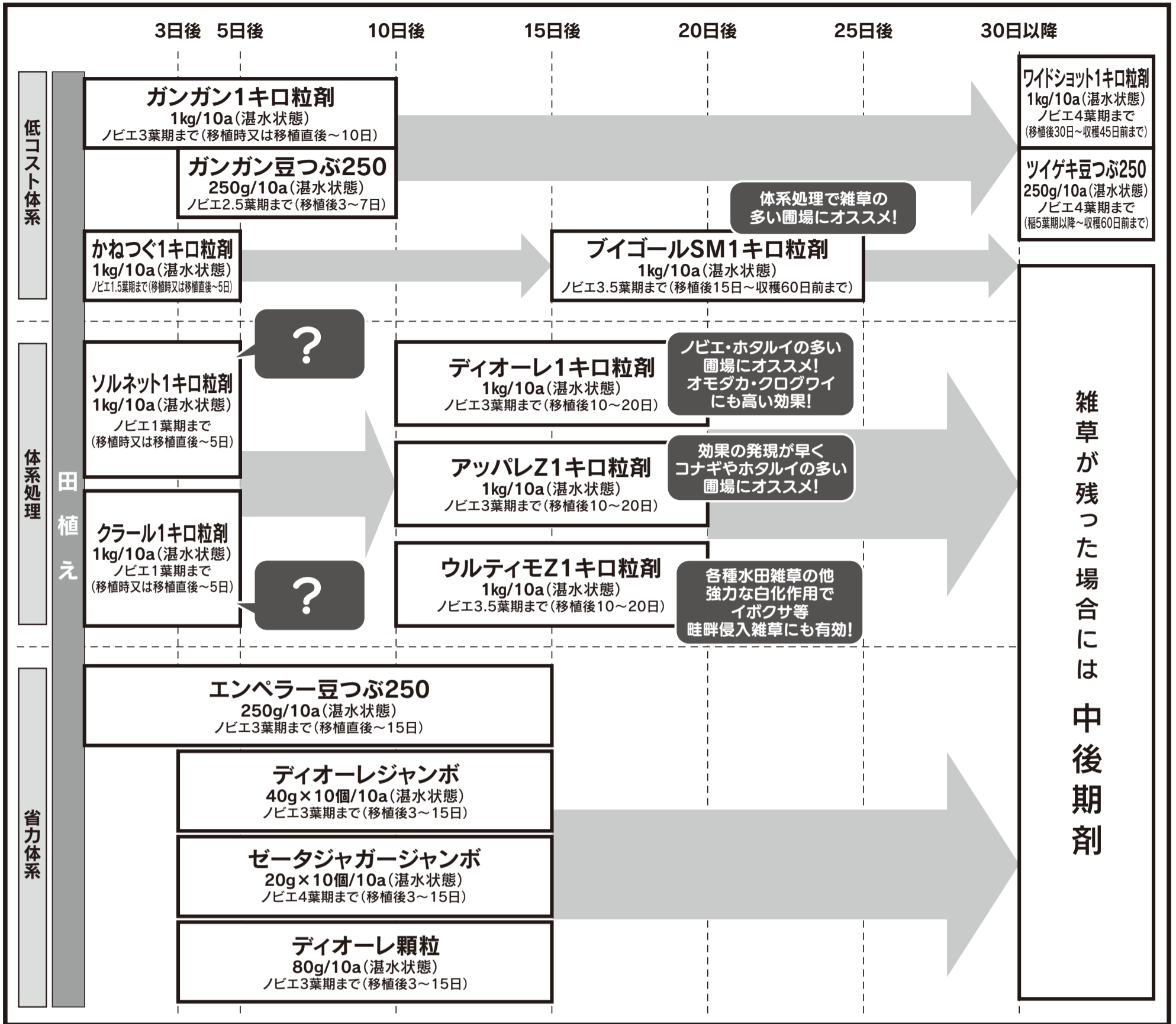
②圃場によって地力差があるので、圃場条件にあわせて基肥量を設定して下さい。

③砂質土壌など地力の低い圃場では、上記目安より1～2割程度増肥して下さい。

代かきは浅水で行い、田植え時の濁り水流出を防止しましょう。

農作業後に公道に出る際は、できるだけ泥を落とすようご協力お願いします。

水稲除草剤体系



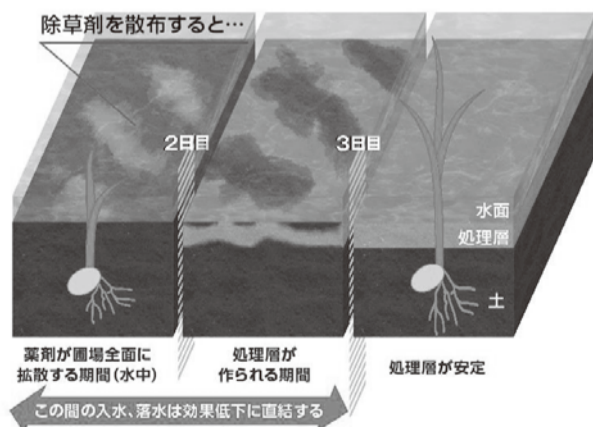
除草剤使用上の留意点

- ①藻類・表層はく離の発生前に散布すること。(発生時にはモグトン粒剤を3kg/10a散布)
- ②粒剤は、動散等で均一に散布する。

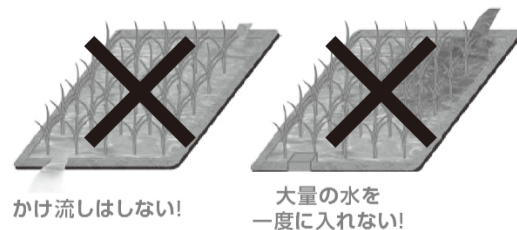
田植え同時散布の注意点

- ①代かきは丁寧にいき、田面をできるだけ均平にする。
- ②強風の際は田植えを控える。(薬害の恐れあり)

水管理は除草剤の効果安定のキーポイント!



- ①除草剤がよく拡散するように、十分な湛水状態にしてください。
- ②除草剤散布後3~4日間は通常の湛水状態を保ってください。
- ③散布後7日間は落水・かけ流しをしないでください。
- ④除草剤散布後は田んぼに入らないでください。散布後の補植はしないでください(除草剤散布前に済ませる)。
- ⑤水持ちが悪いほ場でやむを得ず入水するような場合はなるべく静かに入水してください。

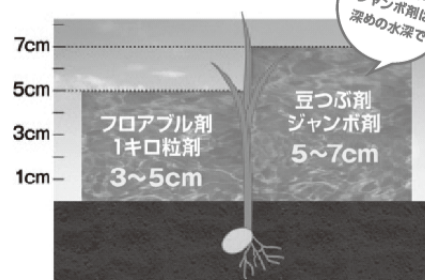


散布後、処理層が形成・安定するまで約3日間かかります。この間の急激な入水・落水は効果の低下に直結します。

3日間は湛水を保つことを心がけ、7日間の止水管理を守りましょう。

除草剤散布前~散布時の水管理

- ①除草剤散布時に田面が露出しないようにたっぷり湛水しましょう。
- ②畦畔からの水漏れをチェックしましょう。
- ③散布前にもう一度、水口・水尻をチェックしましょう。
- ④減水深が2cm/日以上 of 漏水田では除草効果が落ちます。



除草剤は水管理の徹底!

